

【参考資料】

主要課題2 子ども・若者における男女共同参画意識の醸成(p17)関連

○ 令和5年度版 男女共同参画白書より 内閣府「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」結果抜粋

(3) 男性への影響

伝統的な性別役割分担意識や長時間労働等の慣行は、男性の生活や健康にも影響を与えている可能性がある。

(性別役割分担意識)

内閣府の調査¹⁷によれば、特に20代の男性が、職場での役割に関して、性別役割分担意識を強く感じている。職場の役割分担に関する項目のうち、「職場では、女性は男性のサポートにまわるべきだ」「男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない」「仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い」「営業職は男性の仕事だ」「女性社員の昇格や管理職への登用のための教育・訓練は必要ない」の5項目について、女性よりも男性の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」傾向が強く、かつ、男性の中でも年代が低いほど「そう思う」「どちらかといえばそう思う」

傾向が強い。また、「男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ」「同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ」という項目についても、女性より男性の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」傾向が強い(特-38図)。

さらに、同調査では、女性よりも男性の方が性別役割の意識について強く感じていることが分かった。一方、男性は女性と比較して、性別に基づく役割を直接言われた、あるいは言動や態度で間接的に接した「経験」は少なく、伝統的な役割観に自身が捉われていることに気付いていない可能性がある(特-39図)。しかしながら、周囲に前述のような考え方を押し付けるような言動を取ってしまうと、価値観の問題では済まず、職場でのハラスメントにもつながるとの認識を持つ事が必要である。

¹⁷ 内閣府「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」(令和4(2022)年11月公表)。

特-38図 職場の役割分担に関する意識



(備考) 内閣府「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」より作成。